

沖縄クレサラ・貧困被害をなくす会

ニュース



那覇市壺屋2丁目5番7号 3階
電話 098-836-4851



沖縄クレサラ・貧困被害をなくす会

第22回定期総会

新年のご挨拶

代表幹事 横江崇

新年明けましておめでとうございます。

当会は、1996年12月の設立以降、多重債務者の被害の予防と救済を主な目的として活動して参りましたところ、20周年を迎えることができました。これもひとえに皆様のご支援、ご協力の賜であり、深く感謝申し上げます。

さて、当会は、昨年11月9日、兵庫県明石市泉房穂市長を講師にお招きして、第16回沖縄クレサラ・貧困被害をなくす会交流集会「こどもを核としたまちづくり～こどもの未来を守るための社会の責任～」を開催しました。明石市では、中学生までの医療費無料化や第2子以降の保育料無料化など、全世帯対象の子ども施策を次々に打ち出しています。同市の特徴は所得制限をかけずに対象者を限定しないユニバーサルな施策。家庭の所得に関係なく全ての子どもの育ちを保障する施策に取り組んでいます。参考にすべきは、決して貧困対策で子ども支援を行っているわけではないということ。全ての子どもの人権を保障するという事は、今後の子どもの貧困対策において欠かせない視点だと思われまます。

市長の熱いお話に、参加した全ての方が心打たれ、皆さんそれぞれが、それぞれの熱い思いを胸にしたと思います。これから必要なことは、皆さんの熱い思いを無駄にしないこと。何とかしたいと思うことだけで終わらせず、全ての子どもたちの育ちを保障するシステムを形にすることだと思います。

子どもは、未来を担う「社会の宝」であり、無限の可能性があります。子どもは、成長の途中にあり、成長発達する権利を持っています。そして、大人には、子どもの成長発達を支える責任があります。当会は、今回の交流集会で得たことを沖縄の子どもたちのために活かせるよう、今後も多くの皆様のご支援をいただきながら、より一層取組みを強化していく所存です。

本年もよろしくお祝い申し上げます。

明けましておめでとうございます。今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。これまでの総会は年末に開催していましたが、今回は新年の開催となりました。下記の日程で「第22回定期総会」を行います。ぜひご出席下さい。

横江代表幹事の挨拶や司法書士青年の会の仲與根司法書士の感想でも述べられているように昨年の沖縄交流集会での明石市泉水市長のご講演はそれぞれの参加者に熱い思いを残しました。

そうした思いを次に繋げるべく総会の一部に講演会を行います。

講師 田嶋 正雄 氏

沖縄タイムス記者 1971年埼玉県生まれ。1997年、カメラマンとして沖縄タイムス入社。2016年に子どもの貧困問題の連載企画を担当。現在は写真部

沖縄クレサラ・貧困被害をなくす会 第22回定期総会

日時 2018年1月24日(水) 午後6時30分～

第一部 講演 田嶋 正雄氏

「学校での排除、施しとしての支援を問い直す」

第二部 総会

場所 八汐荘 (那覇市松尾1-6-1)

子ども施策が街に活力

明石市長講演 「全員対象」理解の鍵

タイムス 2017 11/3

【那覇】全国に先駆けた子ども支援策を次々打ち出している兵庫県明石市の泉房穂市長を招いた講演会（沖縄クレサラ・貧困被害をなくす会主催）が9日、那覇市の八汐荘で開かれた。第2子以降の保育料や中学生以下の医療費の一律無料化など、子ども・子育て支援に予算を大幅にシフトした独自の施策の効果が人口が増加し、街が活性化している現状を報告。約100人が聴き入った。

明石市は人口約29万4千人。2018年、中核市に移行し、国が中核市に設置を促している児童相談所（児相）を19年4月に開設予定だ。県内では那覇市が13年、中核市になったが、設置の議論は進んでいない。



「子どもを核としたまちづくり」で講演する明石市の泉房穂市長

トした独自の施策の効果が人口が増加し、街が活性化している現状を報告。約100人が聴き入った。

明石市は人口約29万4千人。2018年、中核市に移行し、国が中核市に設置を促している児童相談所（児相）を19年4月に開設予定だ。県内では那覇市が13年、中核市になったが、設置の議論は進んでいない。

泉市長は児相の業務を都道府県が担当する現状について、住民との距離が遠く家庭状況の情報なども持つていないことを挙げ、「基礎自治体

が担う方が早期支援、継続支援、総合的支援ができる」と指摘した。

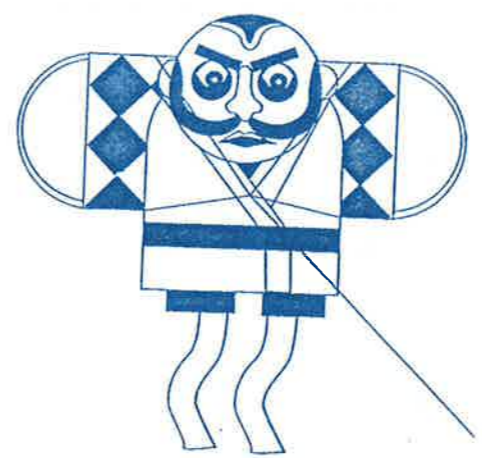
第2子以降の保育料や中学生以下の医療費、公共施設の利用料を所得制限なしで子ども全員無料とするなどの施策の結果、20～30代の子育て世代の転入が急増していると説明。施策に必要な予算額を、市民税などの税収の伸びが上回っていると報告した。

子どもの貧困対策でなく、子ども全体への施策であることとを強調。「一部の困窮世帯だけ救うのではなく、全員対象の方が市民の理解を得やす

い。子どもに予算をつぎ込む施策は子どものためだけでなく、街づくりにつながる」と話した。

夫婦が離婚する際、養育費を支払いや面会交流の取り決めを結ぶよう市が促す取り組みや、市採用の弁護士や社会福祉士、臨床心理士などの専門

職員がチームで困りごとを抱えた家庭の支援に当たる取り組みなどを紹介。「先進的といわれるが、変わり者の市長が特別なことをしているつもりはない。全国どの自治体でもできることばかり。本気かどうか問われている」とメッセージを送った。



～泉明石市長講演「こどもを核としたまちづくり」を聴いて～

初めまして、沖縄県司法書士青年の会（以下「青年の会」といいます。）所属、仲與根と申します。

今回、標記講演会に青年の会が共催として関わらせて頂き、かつ講演会に参加した感想を述べさせていただきます。

平成29年11月9日（木）、沖縄県教職員共済会館「八汐荘」にて、兵庫県明石市市長 泉房穂氏による講演会が行われました。

まず一番印象に残ったのは、明石市をアピールする市長がとにかく熱い！！市の取り組みをアピールする姿は優秀な営業マンを思わせるものでした。

明石市は、こどもを核としたまちづくりで、こどもだけでなく、その親である家族にも暮らしやすい環境を作り出し、人口増加並びに税収増加によりさらなる発展を遂げています。

また、これまでの行政には無い、様々な施策（無戸籍者に対する支援制度、犯罪被害者の支援制度、さらに今後は犯罪加害者の出所後の支援を行う事で再犯率を下げ、結果、被害者を増やさない取り組みを検討している。）も特徴的です。

さらに、明石市の取り組みの一つに、母子手帳を取りに来ない方には職員が届けに行く。市民が役所に来るのを待つのでない。職員が会いに行くんだ。そこで家庭の状況等現場を見て、何か問題を抱えてないかを探し、困っていることがあれば、そこから支援に繋げるんだ。

偏見ではございますが、私の抱いていた行政のイメージ（動かない又は遅い、柔軟性が無い等）を払拭するような取り組み方には衝撃を感じました。

明石市のまちづくりの取り組み方に、独身の私でさえ、明石市に住んでみたいと思わせるものでした。

明石市のまちづくりを聴いて、行政では、このような様々な取り組みができるのだと。逆に、県内のみならず、他の自治体では未だ実現されていない事も多いのではと思いました。

明石市だからできるのではなく、他の自治体でも取り組める施策は必ずあるはずであり、是非とも明石市を参考に実現して頂きたいものです。

標記講演会の内容は、沖縄クレサラ・貧困をなくす会のホームページにて、見る事ができる予定との事なので、講演会に参加できなかった方は、是非とも見て頂ければと思います。